

三浦富士ハイキング



2003年2月23日(日) WTR CLUBの最初のイベントは「三浦富士ハイキング」で始まりました。夏の三浦半島は、過去何度か訪れましたが、冬は初めてです。今年、最初のハイキング、少しでも早い春を感じながら足慣らしをしようというわけです。

この日の天気予報は“曇り時々雨”でしたが、参加者は9名とにぎやかです。あたりには、「津久井浜観光農園」くらいしか観光地などない津久井浜駅に降りると、これまたにぎやか。団体で“ハイキング”？“いちご狩り”？歩き出すと、収穫間際のキャベツ、三浦大根などのすばらしい畑に心が踊ります。三浦というと“まぐろ”を思い浮かべますが、母なる大地に感謝して山へ。そこには、今までの山にはない独特の雰囲気がありました。なんだか熱帯の島の中にいるような。

最後には、畑で収穫中の新鮮なカリフラワーを格安値段でゲットします。心はさらに躍ったのでしょうか？それともこれで落ち着いたのでしょうか？

遠い昔、子供の頃、田舎の裏山を遊んだような「三浦富士ハイキング」です。



集合時間、場所の確認を！

2月23日(日)朝7時30分過ぎ、JR町田駅に行くと、すでに宮部忠和さんが待っていました。“随分早くから”と思ったら、なんと集合時間を1時間まちがえてしまったということ。それはそれは、お疲れ様というかお待ち遠様というか…。今日の天気予報はあまり良くなく、曇り時々雨。途中での雨を想定して、町田は、ガスなども持たずかなりの軽装です。お弁当はいくつかのおにぎりやと決め、駅の裏のコンビニへ買いに行きます。戻ると、加藤夫妻、その団地仲間の向畑さん、板垣さん、河合さん、骨盤骨折から早々復活した横山さんがいました。が、またしても小野さんの姿がありません(12月の二十六夜山ハイキングは忘れて不参加)。おかしいなあ？とそこへ小野さん登場。こちらは、集合場所をまちがえて小田急線の改札付近で待っていたそうです。集合時間が近づいても誰も来ない。もしかしたら天気が悪そうだから中止になったのかもしれない。と、帰ろうとして、今日の行き先を思い返し、横浜経由で三浦方面に向かうのだから…！そう、集合場所はJR町田駅！集合時間は8:00！

なんでだろう？不思議すぎる

横浜線のホームに降り、小野さんが「成瀬のテニスコートの受付の渋谷さんが、町田さんに赤ちゃんができたって言ってたけど」「！！？」驚いたのは町田。「なんで知ってるの？だって、わかったのはきのうだよ」町田麻樹は、2月22日(土)妊娠4週6日と判明しました。もう少し安定するまで黙っているつもりでしたが、この話の流れじゃあそれは無理でした。それにしても不思議？なお、3月8日(土)心拍動が確認でき、順調です。

終点の東神奈川で乗り換えて横浜駅で京浜急行線に乗ります。みんな目的地の津久井浜まで切符を買ったのですが、最後に現れた小野さんは、横浜までも買っていなかったようです。ところが、乗り換え用の自動改札をその切符で通過できてしまい(?)さらに京浜急行線の自動改札にまでその切符を挿入しました。それは、いくらなんでも無理！京浜急行線の切符を買って入ります。これまた不思議？

まずは腹ごしらえ

9時過ぎの三崎口行きに乗ります。同じ車両に乗り合わせたハイキングの団体は、ひとつ手前の「京急長沢」で降りていきま

した。私たちは次の「津久井浜」で下車します。狭い駅前広場は思った以上にぎやかです。名簿を持って受付をする人がいますからハイキングの団体かもしれませんが、それにしてもかなり軽装の参加者も…。ウォーキング&いちご狩りかも。お弁当を現地調達する河合さん

が駅前の京急ストアに入ろうとすると開店5分前でした。近くにコンビニがあったので、みんなでそちらへ。朝早起きしたためか、目で食欲がわいたか、これからに備えてか、なぜかみんな食欲旺盛です。コンビニ前で腹ごしらえとなりました。はす向かいの魚屋にも興味があり、イキのいいやつがあったら買ってしまいそう。これは冬眠から覚めた熊なのか？きっと新鮮な気分になれたから。

豊かな畑

私たちが食欲を満たしている間に団体は歩き始めていました。私たちが行こうとする道とは違いますが、まあいずれ合流するのかもしれませんが。とにかく初めての場所は最初がかんじんです。方向感覚をつかむまではガイドブック通りに行くのが無難かも。京浜急行線をガードでくぐり津久井浜高校を目指します。

まず、目に入ってくるのはキャベツ畑。みずみずしく採ってくれと言わんばかり。どんなに貧しくなってもこのキャベツ畑があれば何年か生き延びられそう…雨が續くと仕事もせずにキャベツばかりをかじってた～

そんな中で丸まらないキャベツのようなのがあってなんだろう？と思っていると大根畑！これぞ三浦大根に違いなし！葉っぱの感じが違うねえ、随分密集して植えているねえ。

高すぎる！いちご狩り

突き当たります。標識には“左：津久井観光農園”“右：武山・三浦富士”とありますが、ガイドブック通り左です。観光農園





でいちご狩りの気分になればそうしようかな。ピニールハウスが沢山見えてきて、横には観光バスが何台も駐車しています。そこを目指す車の往来も激しく驚きます。津久井浜観光農園に到着して、いちご狩りの料金を見ると、30分食べ放題で一人1400円とあります。ガイドブックではこの時期1200円となっていたのにさらに高い！スーパーマーケットでも割と質のよいいちごが1パック500円くらいで売られていますから、誰もその気にならず、見送ります。そこで売られている野菜もいいんだかどうなのか？三浦大根などちょっと心惹かれるものもありましたが、今買って山に登るなんてナンセンスでしょう。観光農園で地図を確認して出発します。

三浦の山はすでに初夏

途中で、津久井浜駅に集まっていたあ集団とすれ違いました。彼らは、駅から少し遠回りをしてウォーキングを楽しみ、観光農園でいちご狩りをして帰るようです。武山ハイキングコースの標識に従って、ようやく登山開始。昨夜、少し雨が降ったようで、しっとりとした緑の中を上っていきます。丸太の階段はどこまでも続き、身体はどんどん暖まり、異常気象で気温が下がった亜熱帯の島を歩いているかのよう。それというのも、このあたりの山は、杉や松などはなく、名前はわかりませんが、背が低く常緑で葉の肉厚のある熱帯的な木々が多く、その下には常に潤ったシダ類があるのです。丸太の階段を登りきって一休み。ここからは、ゆるやかな上りのジャングル探検のよ



う。山道に入って30分足らずで、武山山頂に放り出されました。山頂というよりは、豪邸の庭という感じです。左手には武山不動尊があり、その敷地なのでしょう。“AZALEA HOUSE”と名前の付いた展望台からは、くもっているものの、以前遊んだ猿島や、三浦半島の先端方面がぼんやり見えます。

標高200mの尾根歩き

武山不動尊には誰も関心はないようで、ここはガイドブックに従わず、砲台山へ。武山を緩やかに下ること約20分で砲台山への分岐がありました。ここから山頂の砲台跡までは5分足らず。直径5メートルくらいの丸い砲台の土台がふたつあります。ここは、第二次大戦の要塞の跡ということです。時刻は11時30分、ここでお弁当を広げるハイカーもいましたが、私たちのお腹はまだ求めています。昼食は三浦富士山頂ということで出発。



先程の分岐まで戻り、三浦富士への標識に従います。5分ほどで見晴台到着。景色は武山の展望台からと大差はないのですが、津久井浜観光農園や津久井浜高校などが間近に見えます。“ダイナミックなようで随分と狭い場所をうろうろしているんだなあ”と思ってみたり。“まあ、それはどこへ行っても同じことか”



見晴台から5分ほどでオレンジルートとの分岐に到着します。右のオレンジルートはみかん畑の中を津久井浜観光農園に下りて行くコースです。もちろん道なりに直進します。深い緑に囲まれた尾根歩き。多少のアップダウンはありますが、ちょっとした刺激程度で苦痛ではありません。そもそも砲台山が標高206メートル、三浦富士は標高183メートルなのですから。



石祠でお湯を沸かす

三浦富士山頂到着12時10分。やはりここが一番山頂らしい





風貌です。津久井浜駅近くにある浅間神社の奥宮で小さな鳥居と石祠が祀られています。この奥宮のまわりで昼食とします。小野さんと加藤さんはガスを持って来ていて、早速お湯を沸かし始めました。小野さんはなんと大胆にも石祠の中で！加藤さ



んは、風で火が消えてしまったり、うまくいきません。ここは師匠を見習い、石祠の中へ持ち込みます。風は来ないし、石祠自体が暖まるのでガスの出もよくなり、すぐにお湯が湧きます。あとからやって来たファミリーハイキングのお母さんが「まあ！」と驚いていましたが、おばあちゃんは「いいんじゃない」という顔、子供達は山頂到達で感激していました。



記念撮影後、午後1時下山開始。急な階段を一気に下り、しばらく歩くと、整備された農道に出ました。当然あたりは畑です。山頂からは10分ほど、なんともあっけない下山でした。遠くに海を見ながら、小高い丘の中の畑をのんびり歩いていると、



牧歌とか童謡が流れてきそうな雰囲気です。朝、立ち寄った観光農園が見えてきました。その時はりっぱな三浦大根背負って山を登るなんてばかげているから、帰りにということに。「寄りますか？」「いや、いいでしょ」

念願の収穫！

ところが、すぐに出刃包丁持って収穫中の農夫を発見！朝から気になっていた“葉っぱがいきり立ったキャベツのようなヤツ”の正体は？「これは何ですか？」「カリフラワーだよ」「ああ」なんだか不思議な畑で、あんまり本気出していないような…。畑があるから周りに合わせて作付けして、必要な分だけ収穫している感じかな。大柄でパンチパーマみたいな頭で無口で、出刃包丁持っていてちょっと見“怖い”“熊みたい”。だから「売って下さい」という一言が。それが言えたのは加藤さん！なんなく交渉成立しひとつ100円でカリフラワーを





GET!みんなもお願いしてカリフラワーを買いました。板垣さんは三浦大根も100円で手に入れました。なんだ優しい人じゃない。

津久井浜駅へ帰る途中、やる気のある(?)畑では家族で収穫中。農協の大きな段ボールにどんどんキャベツを入れていきます。ここで交渉したら1箱いくらなんだろうなあ。車ならいいけれど新鮮なうちには食べきらないな。など考えていたら駅に着きました。のどかな春の三浦でした。



町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
加藤純代	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
河合稔	194-0000	東京都町田市下小山町 2979-2 042-797-1611
板垣実	194-0032	東京都町田市本町田 2577- ホ -22-101 042-793-1271
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662
向畑恒子	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 2-102 042-726-5574

